

平成16年度地域における子育て支援推進事業
子育てサロン・サークルの実態調査報告書

社会福祉法人京都市社会福祉協議会
京都市内各区社会福祉協議会

目 次

調査の目的・方法などについて	2
（調査の目的）	2
（調査の対象）	2
（対象数）	2
（調査の方法）	2
（調査期間）	2
（主な調査項目）	2
（回収結果）	3
子育てサロン・サークルの実態調査でみえること	4
（設置状況）	4
（関わっている団体）	5
（活動の主体）	7
（活動頻度と時間帯等）	8
（収入源）	10
（参加者の登録制と参加人数）	11
（対象となる子どもの歳）	12
（活動している上で困っていること）	13
（行政や社協に対する要望）	15
子育てサロン・サークル支援にあたっての考察	17

調査の目的・方法などについて

(調査の目的)

地域を舞台にして実施される子育ての居場所づくりの活動を身近なエリアで推進していく契機とするため、京都市内のサロン・サークルの実態を把握し、支援策を明らかにすることを目的としています。

(調査の対象)

京都市内において年に6回以上継続的に、子育てに関わるサロン活動(親子が集える居場所)やサークル活動(親子等自身が自主的に結成し、集っている)を実施しているグループ・団体・ネットワーク組織等(以下、グループ等とする)とし、市社会福祉協議会(以下、市社協)や区社会福祉協議会(以下、区社協)が把握しているグループ等としました。

ただし、児童館等が主体となって児童館等内を拠点に実施され、親子が利用者の立場となっている「幼児クラブ」等は対象外としています。

(対象数)

区社協が把握しているグループ等総数・・・139団体

市社協が把握しているグループ等・・・30団体

計169団体

(調査の方法)

区社協が把握しているグループ等には、区社協から郵送及び手渡しにて配布

市社協が把握しているグループ等には、市社協から郵送にて配布

(調査期間)

平成16年10月20日～平成16年11月30日

(主な調査項目)

- ・ 活動内容
- ・ グループ等活動に関っている機関・団体
- ・ 活動の主体者
- ・ 社協との関わり
- ・ 活動頻度、時間帯、曜日、一回あたりの活動時間
- ・ 主な活動場所
- ・ 活動資金の収入源
- ・ 参加者の登録制の有無、一回あたりの参加人数
- ・ 参加者の年齢層
- ・ 活動している上で困っていること

尚、本調査項目は全国社会福祉協議会が平成13年9月および平成14年1月に実施した「ふれあい・子育てサロン」活動に関する全国アンケート・プレ調査を参考にして、設定したものである。

(回収結果)

社協名	配布数	回収数	回収率
北 区	3	2	66.7%
上京区	6	6	100.0%
左京区	7	7	100.0%
中京区	20	18	90.0%
東山区	5	5	100.0%
山科区	14	9	64.3%
下京区	4	4	100.0%
南 区	12	12	100.0%
右京区	18	18	100.0%
西京区	15	15	100.0%
伏見区	35	32	91.4%
京都市	30	8	26.7%
合 計	169	136	80.5%

子育てサロン・サークルの実態調査でみえること

(設置状況)

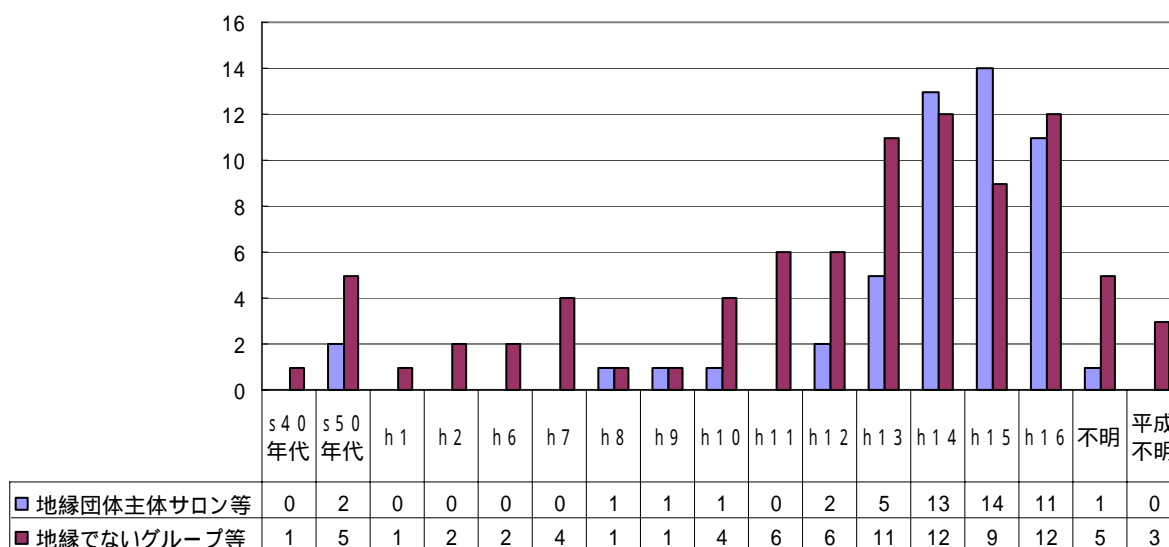
昭和40年代から母親の自主的なサロン・サークルの設置がみられ、昭和50年代設置のサロン・サークルは7箇所となっています。その後も徐々に増えてきていますが、平成10年以降、特に平成13年ごろからその伸びが顕著となっています。

学区の民生児童委員協議会や学区社協といった学区内で設置されている伝統的な地縁団体が主体となって実施するサロンやサークルの設置(以降、“地縁団体主体サロン等”とする)は、昭和50年代からみられていますが、初期に設置されているのは、「子ども文庫」や「児童文庫」という名称で、子どもたちに良質な本の貸し出しや読み聞かせを主の目的とするグループ活動となっています。平成13年ごろからは、親子が集える居場所の確保を目的とした“地縁団体主体サロン等”が、めざましく増加しています。

親子や、学区にとらわれないボランティアなどが自主的に結成しているサロンやサークル(以降、“地縁でないサークル等”とする)は、早期から着実に増えていきましたが、やはり、平成13年ごろからの増加が目立っています。

平成16年現在、“地縁団体主体サロン等”は11団体、“地縁でないサークル等”は12団体となっています。

設置状況



“地縁団体主体サロン等”としたのは次の2点のいずれにも該当する場合です。

「活動主体」が「サロン参加者」でない場合

「関わっている団体」が、民生児童委員・町内会・学区社協・小中PTAのいずれかに該当する場合
それ以外はすべて、“地縁でないサークル等”としています。

(主な活動)

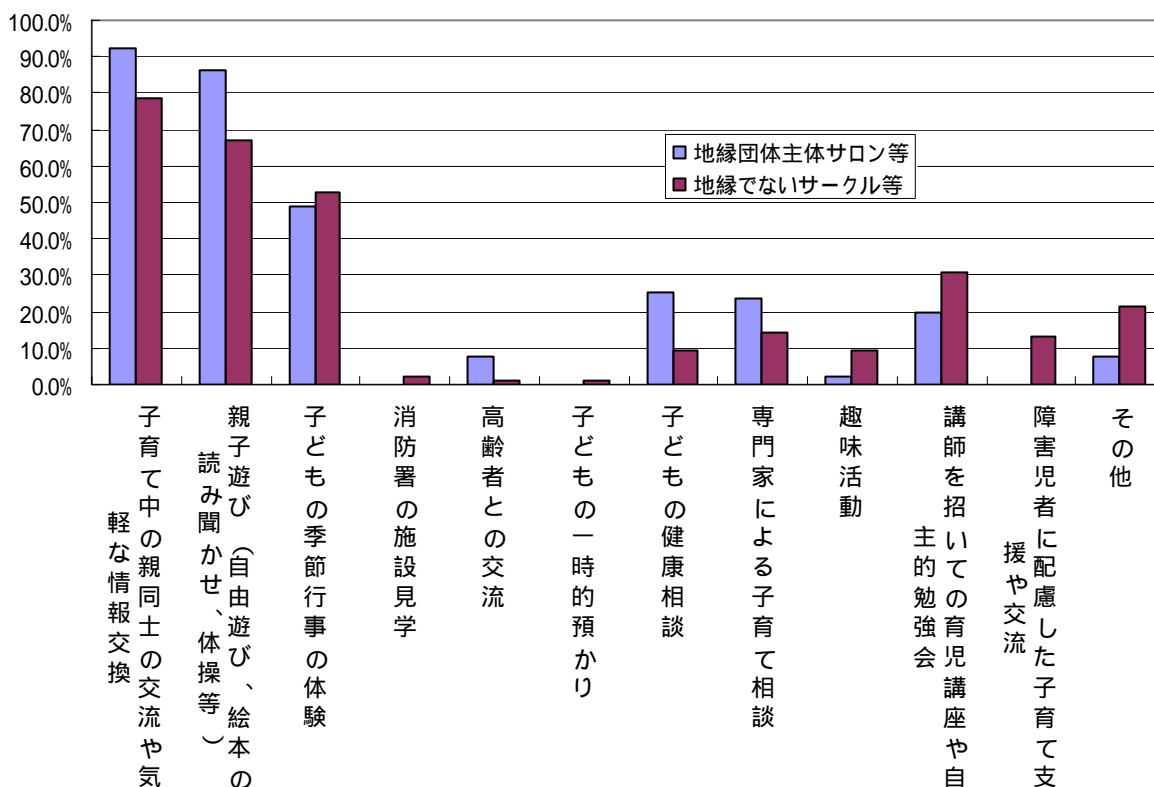
サロン・サークルでよく行われている活動としては、「子育て中の親同士の交流や気軽な情報交換」が114ヶ所(83.8%)、「親子遊び(自由遊び、絵本の読み聞かせ、体操等)」は101ヶ所(74.3%)、「子どもの季節行事の体験」70ヶ所(51.5%)があげられます。ただし、“地縁団体主体サロン等”と“地縁でないサークル等”とでは、グ

ラフのとおり差が生じています。

“地縁団体主体サロン等”の方が多くて差が10%以上となっているのは、「親子遊び(自由遊び、絵本の読み聞かせ、体操等)」「子どもの健康相談」(16.1%差)「子育て中の親同士の交流や気軽な情報交換」(13.4%差)でした。逆に、“地縁でないグループ等”だけが取り組んでいるのは、「障害児者に配慮した子育て支援や交流」(11ヶ所)で、「その他」に次いで、“地縁でないサークル等”の方が多いのは「講師を招いての育児講座や自主的勉強会」(11.0%差)となっています。

「その他」では、本に親しむ活動を中心に行っている文庫活動や、双子・三つ子などの多胎児出産(予定)世帯対象の取組みや、不登園の取組みなどがあげられています。

主な活動(複数回答)



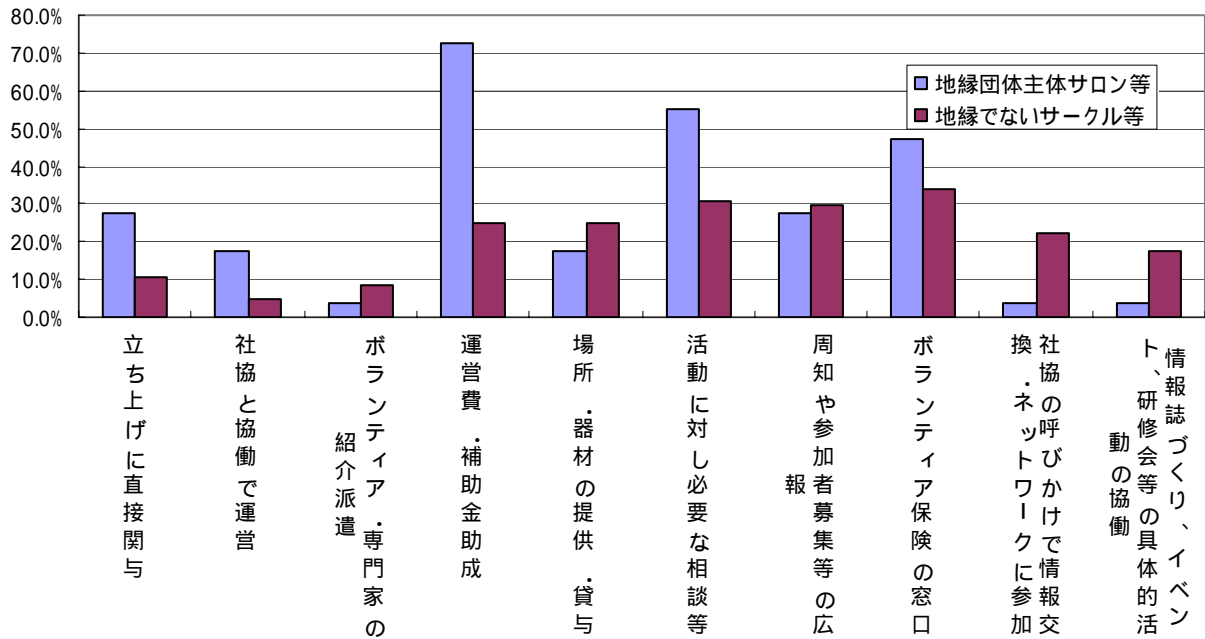
(関わっている団体)

サロン・サークルに対する市・区社協の関わりの内容で、多く挙げられた上位3位では「運営費・補助金助成」が58ヶ所(42.6%)、「活動に必要な相談等」が54ヶ所(39.7%)、「ボランティア保険の窓口」が53ヶ所(39.0%)でした。

実施主体別に分けるとグラフのとおり、“地縁団体主体サロン等”では、「運営費・補助金助成」(47.8%差)や「活動に対し必要な相談等」(24.3%差)「立ち上げに直接関与」(16.9%差)で、大きく“地縁でないサークル等”を上回っています。逆に、“地縁でないサークル等”が多いのは、「情報交換・ネットワークに参加」(18.5%差)「情報誌づくり、イベント、研修会等の具体的活動の協働」(13.7%差)となっています。

区社協の関わりとしては、“地縁団体主体サロン等”の方がより直接的な関わりをしていることが読み取れます。

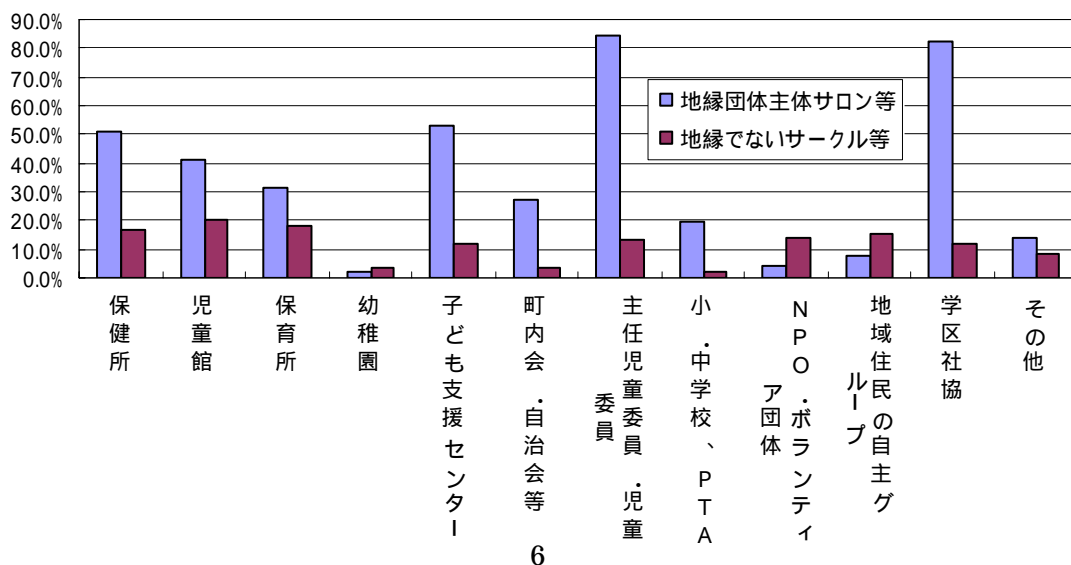
区社協の関わり状況（複数回答）



市・区社協以外に何らかの関わりをもつ団体等としては「主任児童委員・児童委員」が最も多く54ヶ所（40.0%）、次いで「学区社協」が52ヶ所（38.5%）で、両者とも、身近な地域の福祉活動を推進する団体です。そして、「保健所」が40ヶ所（29.6%）、「児童館」が38ヶ所（28.1%）、「子ども支援センター」が37ヶ所（27.4%）、「保育所」が31ヶ所（23.0%）といった行政機関や施設がつづきます。

実施主体別にみると、“地縁でないサークル等”では「児童館」が20.2%で最高値となり、全体的に他機関・団体との関わりが少ないことがわかります。一方、“地縁団体主体サロン等”では、地域の団体から行政機関までさまざまな関わりをもっていることがみられます。

市・区社協以外の機関・団体の関わり状況（複数回答）

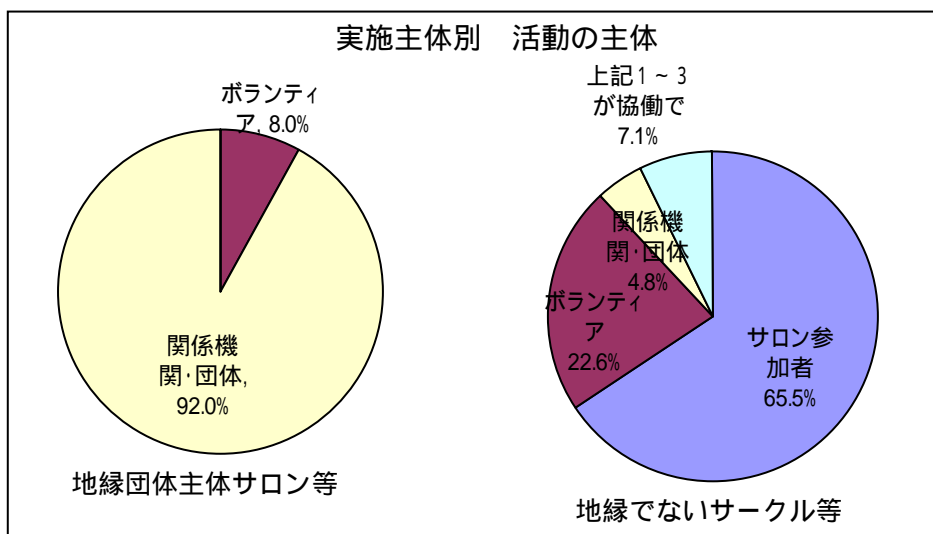
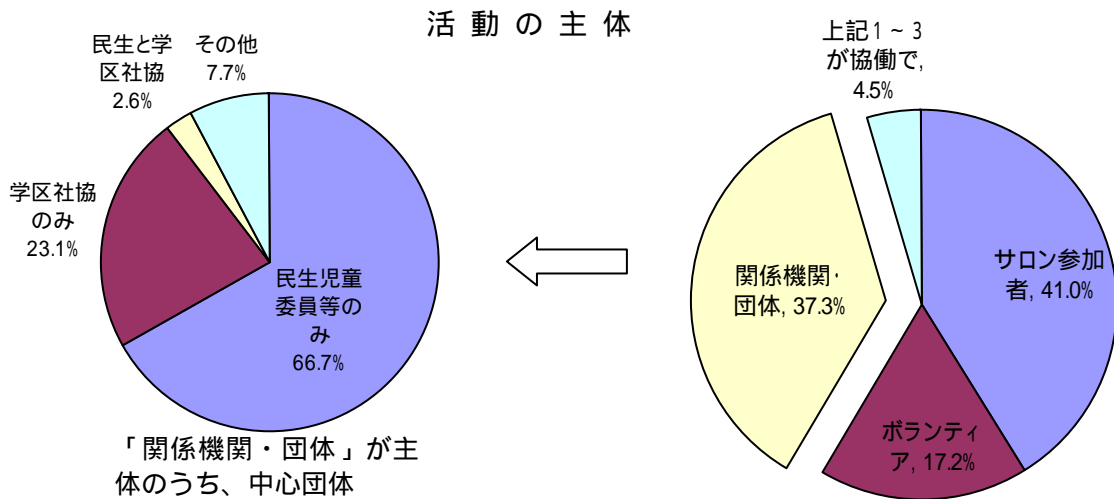


(活動の主体)

活動の主体者は、「サロン参加者」が55ヶ所(41.0%)、「関係機関・団体」が50ヶ所(37.3%)、「ボランティア」が23ヶ所(17.2%)となっています。「関係機関・団体」の中で、その中心団体として最も多くあげられたのは、「民生児童委員」で66.7%、次いで「学区社協」が23.1%、「民生児童委員協議会と学区社協」が2.6%となっています。

実施主体別にみると、“地縁団体主体サロン等”では92.0%が「関係機関・団体」となっているのに、“地縁でないサークル等”では65.5%が「サロン参加者」、次いで「ボランティア」が22.6%で、「サロン参加者」「ボランティア」「関係機関・団体」の「三者が協働で」というのが7.1%、「関係機関・団体」は4.8%となっています。

“地縁団体主体サロン等”が子育てに関わる団体の関与が強いのに対し、“地縁でないサークル等”の方が、当事者や当事者に直接的に関係の深い個人が関わっていることがわかります。

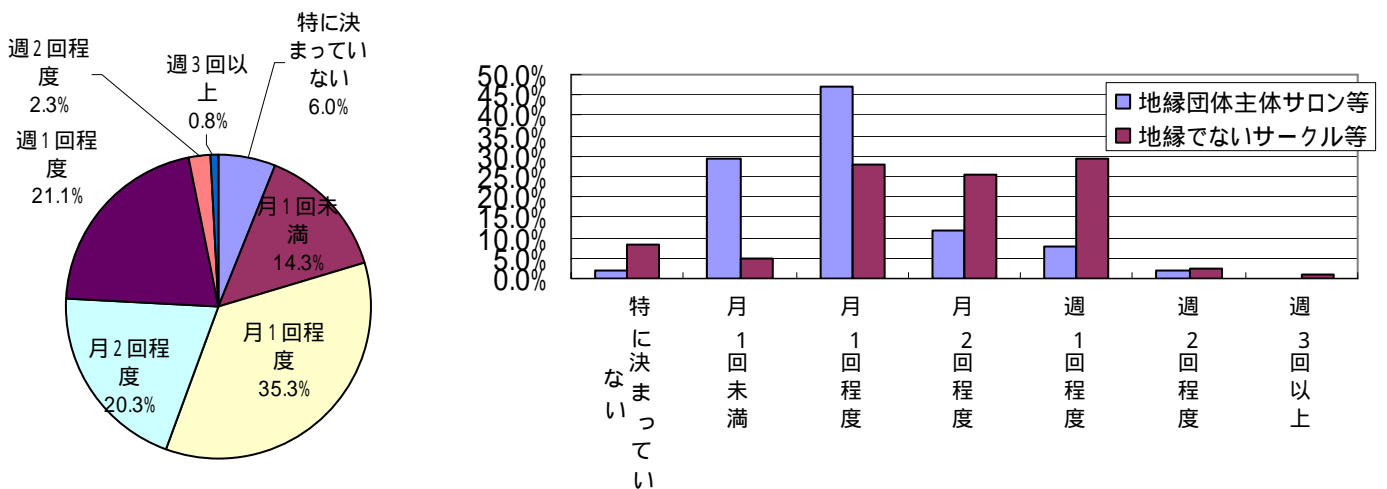


(活動頻度と時間帯等)

活動頻度は「月1回程度」の実施が47ヶ所(35.3%)、次いで「週1回程度」が28ヶ所(21.1%)、「月2回程度」が27ヶ所(20.3%)、「月1回未満」が19ヶ所(14.3%)と続きます。「週3回以上」は、一ヶ所のみで(0.8%)、「特に決まっていない」ところは8ヶ所(6.0%)でした。

実施主体別にみると、“地縁団体主体サロン等”では「月1回程度」以下の頻度が、合わせて76.5%となっているのに対して、“地縁でないサークル等”では、「月1回程度」以上の頻度が合わせて86.5%となっており、“地縁でないサークル等”の方が活動頻度が高い傾向がみられます。

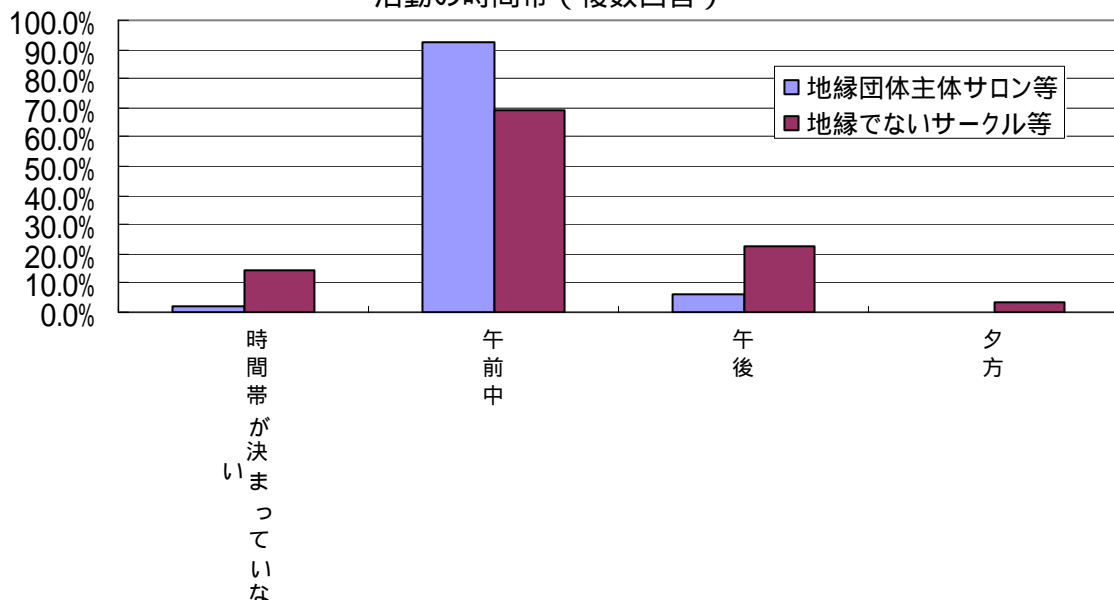
活動頻度



活動の時間帯としては、「午前中」が105ヶ所(77.8%)、次いで「午後」が22ヶ所(16.3%)、「時間帯が決まっていない」が13ヶ所(9.6%)、「夕方」が3ヶ所(2.2%)となっています。

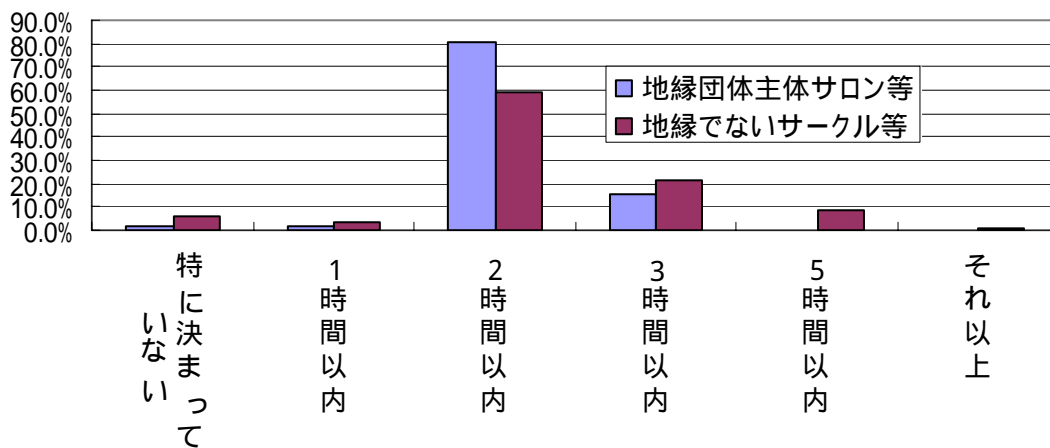
実施主体別にみると、“地縁団体主体サロン等”と比べて“地縁でないサークル等”の方が活動の時間帯にばらつきがみられます。

活動の時間帯(複数回答)



さらに、一回あたりの活動時間としては、「2時間以内」が90ヶ所（67.2%）、「3時間以内」が26ヶ所（19.4%）となっています。これを実施主体別にみると、“地縁団体主体サロン等”は「2時間以内」が8割を超えていますが、“地縁でないサークル等”は、「2時間以内」が約6割で、「3時間以内」「5時間以内」では、約3割となっており、“地縁でないサークル等”の方が活動時間が長い傾向にあります。また、複数回答の状況から、“地縁でないサークル等”の方が柔軟な活動形態をもっている傾向にあることが読み取れました。

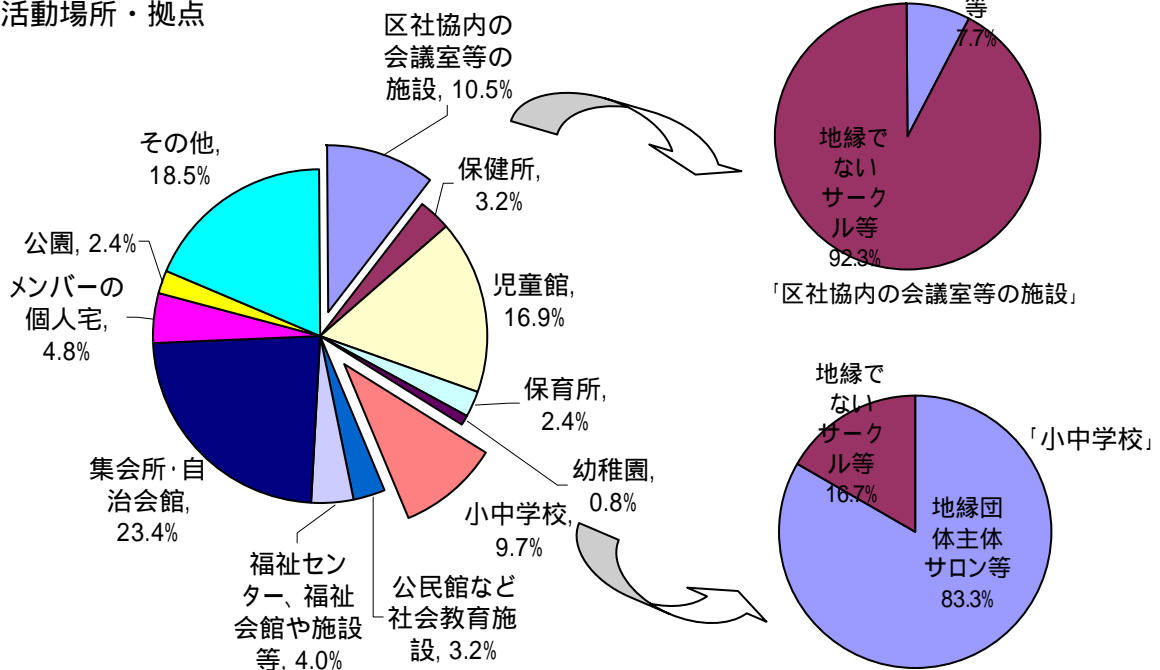
活動時間（複数回答）



（活動場所・拠点）

活動場所は実施主体によって差異が生じています。

活動場所・拠点



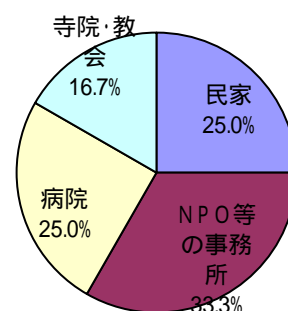
全体的にみて活動の場所（拠点）で一番多かったのが、「集会所・自治会館」で29ヶ所（23.4%）でした。「その他」を除いて次に多いのが、「児童館」で21ヶ所（16.9%）で、「区社協内の会議室」が13ヶ所（10.5%）、「小中学校」が12ヶ所（9.7%）と続きます。そのうち、実施主体によって差が大きく出たのが、「区社協内の会議室」と「小中学校」で、“地縁団体主体サロン等”と“地縁でないサークル等”の占める割合が逆転しています。それぞれ、実施主体の占める割合をグラフにしています。

また、「その他」は23ヶ所（18.5%）となりましたが、その中で、具体的にどこで実施しているのかをあげていたところは、12ヶ所で、その内訳はグラフのとおりとなっています。

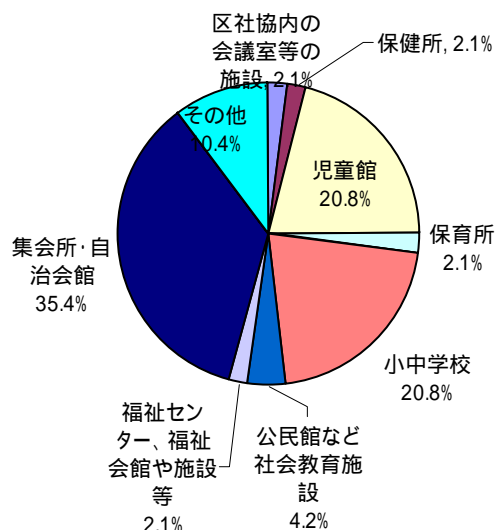
実施主体別にみると、“地縁団体主体サロン等”では多い順に、「集会所・自治会館」（35.4%）、「小中学校」・「児童館」（20.8%）、「その他」（10.4%）、「公民館など社会教育施設」（4.2%）、「福祉センター、福祉会館や施設等」「保育所」（共に2.1%）となっており、“地縁でないサークル等”と比べて、公共的な場所の使用がしやすい状況にあるようです。

“地縁でないサークル等”では、上位5位を上げると、「その他」（23.7%）が一番多く、次いで「集会所・自治会館」「区社協内の会議室等の施設」（共に15.8%）、「児童館」（14.5%）、「メンバーの個人宅」（7.9%）となっています。

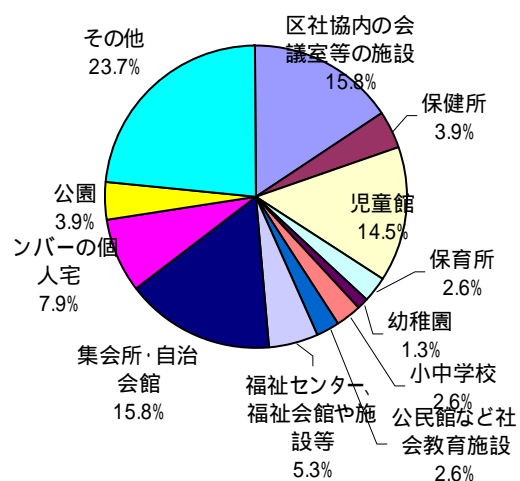
「その他」の内訳



地縁団体主体サロン等



地縁でないサークル等

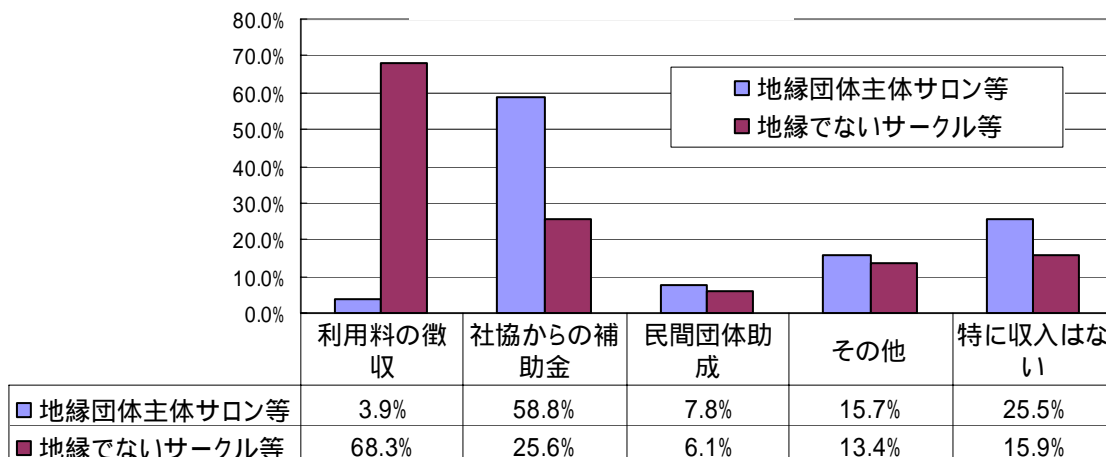


（収入源）

全体的にみると、「利用料の徴収」をあげているのは58ヶ所（43.6%）、「社協からの補助」が51ヶ所（38.3%）、「特に収入はない」が26ヶ所（19.5%）、「その他」が19ヶ所（14.3%）、「民間団体助成」は9ヶ所（6.8%）となっています。

実施主体別にみると、大きく違いが出ており、“地縁団体主体サロン等”は「社協からの補助金」や「その他」の中でも「学区社協」などといった地縁団体からの補助金が多くなっており、「利用料の徴収」はあまりみられません。それに対して、“地縁でないサークル等”では「利用料の徴収」が全体の約7割を占めています。また、「その他」の収入では、地縁団体からの補助金をもらっている例はありませんでした。

収入源（複数回答）



「その他」の内訳

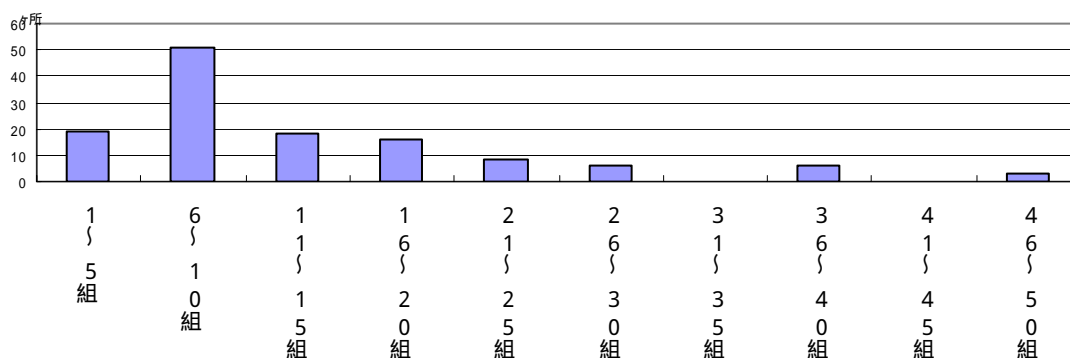
（参加者の登録制と参加人数）

参加者の登録制をとっているところは60ヶ所（46.2%）、とっていないところは70ヶ所（53.8%）となっています。登録人数は、6人というところから400人というところまで、さまざまです。

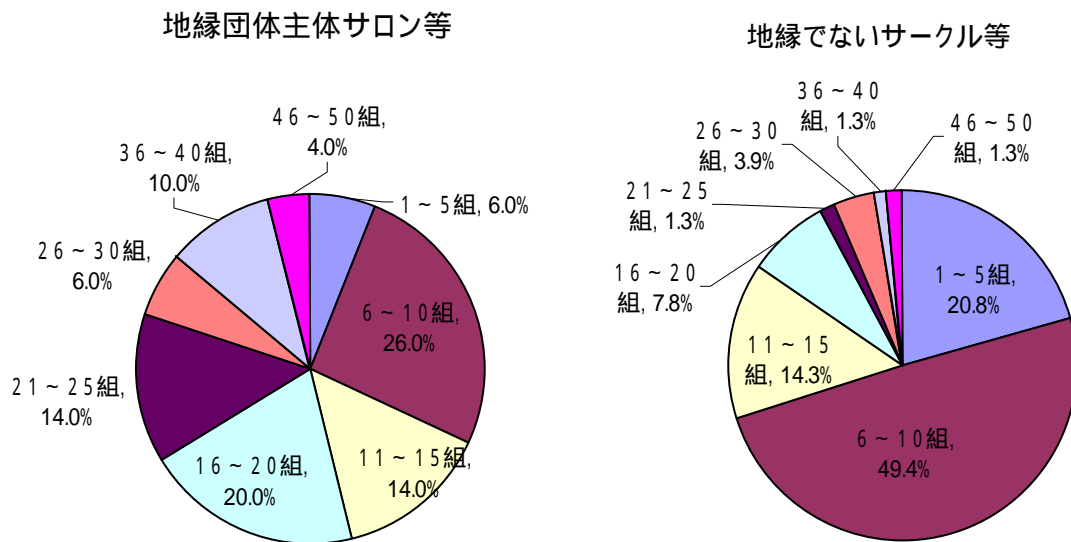
実施主体別にみると、“地縁団体主体サロン等”は「登録制なし」

が9割近くに達するのに対して、“地縁でないサークル等”では、「登録制あり」が7割近くに達しています。

一回あたりの参加者数



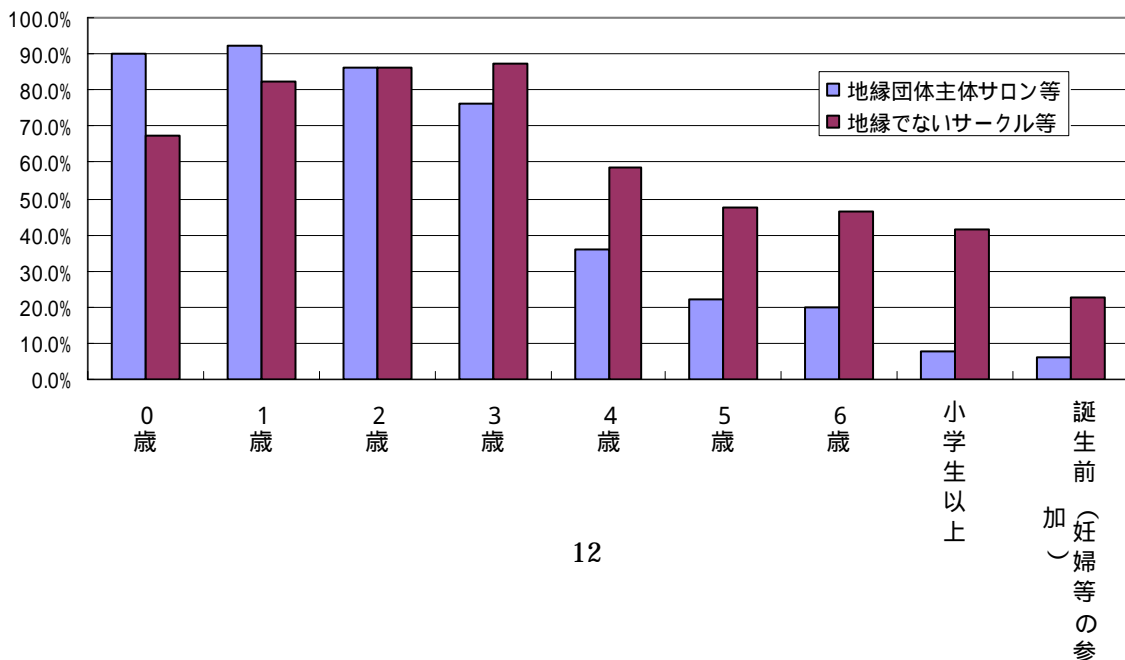
一回あたりの参加者数は少ないところで2組、多いところで50組程度となっています。実施主体別にみると“地縁でないサークル等”では、最も多いのが「6～10組」で全体の約5割を占めており、15組までとなると全体の約85%を占めています。一方、“地縁団体主体サロン等”の場合は、最も多いのが「6～10組」ですが26.0%に過ぎず、「25組」までは、まんべんなく占められているのがわかります。“地縁でないサークル等”の方がこじんまり活動している傾向にあることが読み取れます。



(対象となる子どもの歳)

「1歳」から「4歳」の子どもを対象としているサロンは全体でみると5割を超えています。実施主体別にみると若干の差が生じています。“地縁団体主体サロン等”は、「4歳」以上となると、割合が急に下がっています。一方で、“地縁でないサークル等”では、「4歳」以上でも5割あたりにのぼっており、「小学生以上」や「子どもが誕生する前の妊婦」をも対象としている割合が“地縁団体主体サロン等”よりも多く高くなっています。

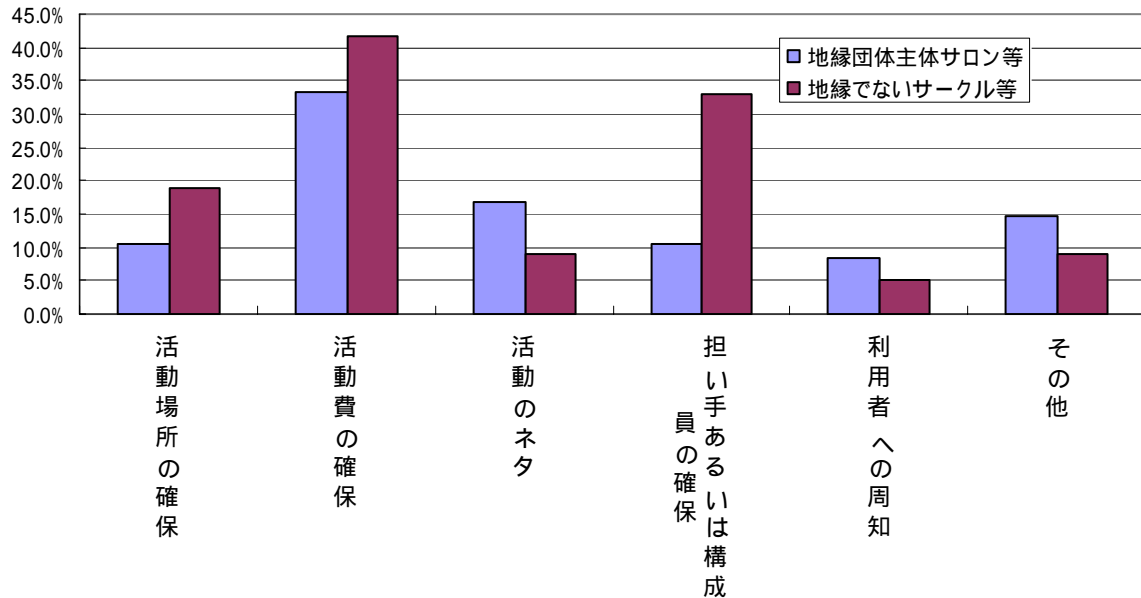
対象となる子どもの年齢（複数回答）



(活動している上で困っていること)

多くあげられている順で「活動費の確保」が49ヶ所(38.6%)、「担い手あるいは構成員の確保」が31ヶ所(24.4%)、「活動場所の確保」が20ヶ所(15.7%)、「その他」が14ヶ所(11.0%)、「利用者への周知」(6.3%)となっています。「その他」の中身をみると、「もう少し広い場所がほしい」、「会場が手狭」といった活動場所に関わるものが3件、「参加する子どもが減少」、「新しいメンバーが入りづらい」といった「構成員の確保」に関わるものが2件、「講師の確保」といった「担い手の確保」に関わるものが2件含まれています。

活動している上で困っていること(複数回答)

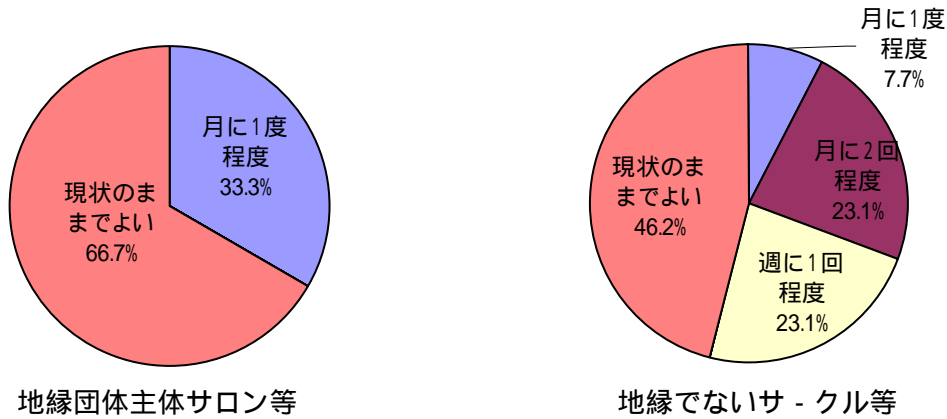


実施主体別にみると、「困っていること」を指摘している件数の割合が多いのは“地縁でないサークル等”でした。そして、実施主体によって大きく差異が生じている項目は、「担い手あるいは構成員の確保」で、“地縁でないサークル等”で指摘されている割合が著しく高くなっています。さらに加えて“地縁でないサークル等”の方が“地縁団体主体サロン等”よりも多く指摘されているのは、「活動場所の確保」「活動費の確保」でした。逆に、“地縁団体主体サロン等”の方が多く指摘している「困っていること」としてあげられるのは「活動のネタ」となっています。“地縁でないサークル等”の方が、俗に言う、ヒト・モノ・カネといった運営上の根幹を成す要素において困っている傾向が読み取れます。

次に「困っていること」で、「活動の場所の確保」があげられたところで、「本来活動頻度をどの程度増やしたいか」を尋ねたところ、「現状のままでよい」が5割となっています。現状の頻度を保つのでさえ、活動の場所の確保に困っているという状況がみえてきます。

実施主体別にみると、“地縁団体主体サロン等”では、「現状のままでよい」と答えているのが7割弱で、あとは「月1回程度」であればよいと答えています。これに対して、“地縁でないサークル等”では「現状のままでよい」のが5割弱となっており、「月1回程度」であればよいのは1割を超えない範囲であり、「月2回程度」や「週1回程度」というように、より頻度高く実施したいという要望があります。

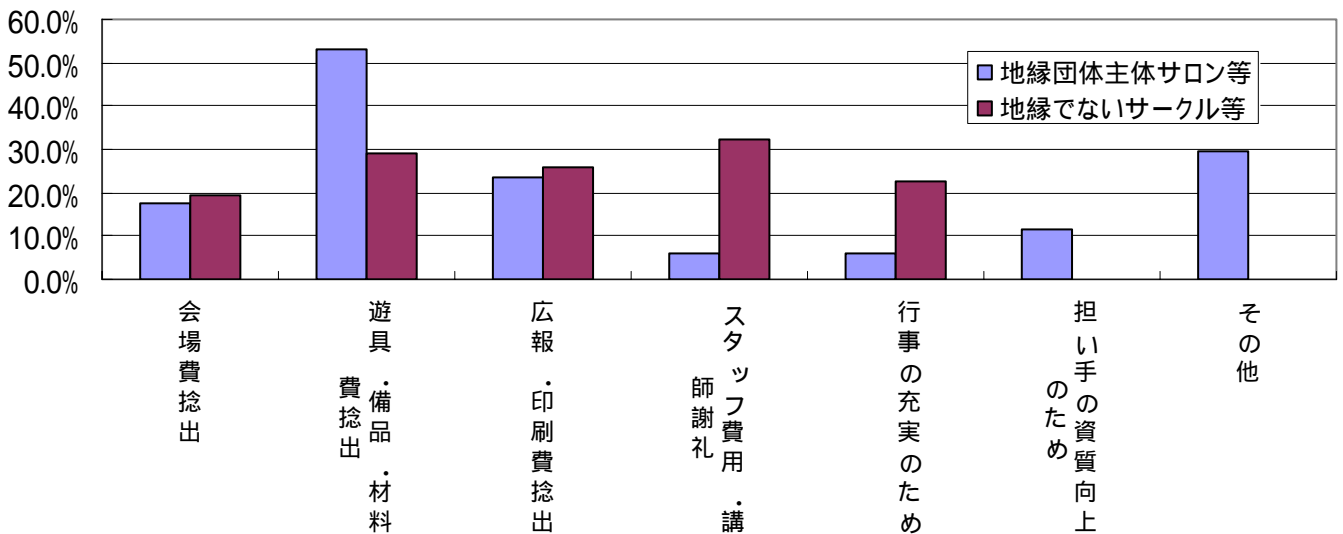
本来活動頻度をどの程度にしたいか



また、「活動費の確保」に困っているところに、「活動費がないことで何に困っているか」を自由に記載してもらったところ、おおまかに「会場費の捻出」「遊具・備品・材料費の捻出」「広報・印刷費の捻出」「スタッフにかかる費用・講師謝礼」「行事の充実のための費用捻出」「担い手資質向上のための捻出」に困っているということが整理できました。そして「回数を増やしたい」「フリーマーケットで補っている」といった、困っている要因が限定できないものは「その他」として集計しました。

全体で見れば、一番多くあげられたのは「遊具・備品・材料費の捻出」で37.5%でした。続いて「広報・印刷費の捻出」25.0%、「スタッフにかかる費用・講師謝礼」22.9%、「会場費の捻出」18.8%、「行事の充実のための捻出」16.7%、「担い手の資質向上のための捻出」4.2%となっています。

活動費がないことで困っていること 自由記載を整理した。(複数回答)



実施主体別にみれば、“地縁でないサークル等”でより多くあげられたのが、「スタッフにかかる費用・講師謝礼」「行事の充実のための捻出」となっています。“地縁でないサークル等”では、特にキャンプやイベント等でのスタッフの交通費などをあげるところが

みられ、「活動する上で困っていること」で“地縁でないサークル等”に「担い手あるいは構成員の確保」が多くあげられていたことから、組織的というよりは個人的ネットワークの中でようやく確保したボランティア等に対する実費の捻出に苦労している姿が推察されます。

これに対して“地縁団体主体サロン等”で多くあげられたのが、「遊具・備品・材料費の捻出」と「担い手の資質向上のための捻出」でした。“地縁団体主体サロン等”では、どちらかという活動の中身そのもので困っている傾向が読み取れます。

(行政や社協に対する要望)

自由記載で要望について回答してもらったところ、次のように整理することができます。

場所の確保

- ・ 区社協会議室の予約日をもっと前にしてほしい。周知ができないため。
- ・ 子育てサークル活動ができる場の無料提供。
- ・ 学区内に公園が少なく砂場は動物の糞尿に汚染されていて使用できない。安心してのびのび遊べる公園や室内施設を希望する。
- ・ 区に1～2ヶ所、駐車場完備でさまざまなサークルが実施できる場を作ってほしい。
- ・ 学区以外のメンバーがおり、場所が借りにくい。
- ・ 子どもが使うための施設でないため、何かと不都合が生じてくる。
- ・ できるだけ経費のかさまない活動場所を紹介してほしい。
- ・ 休日、学校の運動場や体育館をハンディのある子どものために開放してほしい。
- ・ 障害児(自閉症)専用の遊び場所(公園など)が欲しい。
- ・ 備品等がおける貸しロッカー等があればよい。
- ・ 活動場所の定期的確保の援助をしてほしい。ひと・まち交流館の駐車場の減額を働きかけて欲しい。
- ・ 活動場所に困っているところも随分あるので、学校開放などの協力を積極的に働きかけてほしい。

行政・社協同士の連携・協力

- ・ 行政も社協と連携してほしい。
- ・ 子育ての視点から行政機関との懇談会や意見交換ができる場をつくってほしい。
- ・ 行政・民間の役割分担、協働、委託などを整理することが必要。子育てステーションの質の強化。
- ・ 土日等に行政機関は協力してほしい。
- ・ 育児相談や健康相談などを直接児童館や保健所に出向いて依頼しているが、これらの窓口があれば開催回数も増やしていける。
- ・ 区社協は学区内の諸団体等に協力できる事柄を示してほしい。

財源援助

- ・ 助成金がほしい。
- ・ 助成金を増やしてほしい。
- ・ 年に少しでもよいので図書購入や活動費の継続的な援助があればよい。表彰より図書

券の方がよい。

- ・ 行事を行うにはお金なしではできません。ボランティアにも限界がある。
- ・ 助成金を再開してほしい。

サロン・サークル同士の連携

- ・ 子育てサークル連絡会での区社協の関わりがありがたく、他区にも広がってほしい。
- ・ 2、3学区連携の取組みがあればよいのだが。
- ・ 他サークルとの交流会の主催をしてほしい。
- ・ 他サークルとの交流の機会をつくってほしい。サークルだけではできない大きな催し（講演会・各種イベント）の企画をしてほしい。

その他

- ・ 多胎児育児（出産も含め）に関心を持ち、金銭的にも人材的にも協力してほしい。
- ・ 制度がよくわからない。
- ・ 子どもが支える施設が少ない。親たちからはサロンを増やしてほしいという要望はあるが、行政としての支援活動を望む。
- ・ 0～2才くらいの子どものお母さんは子どもと一緒に楽しめる場所を求めている。
- ・ 出前や講師などの活動の機会と場所を紹介提供してほしい。地域内行事にも参加したい。
- ・ 遊びを教えてください保育士さんを出張（ボランティア）してほしい。
- ・ 講習会や勉強会など増やしていただいたり、情報を流していただければうれしい。
- ・ 行政側だけの勉強では虐待児の対応はできない。
- ・ 一般が利用する公共施設には公共交通手段を備えてほしい。
- ・ 子育てサークルは子ども連れで参加しやすいよう小さな単位での活動が望ましい。小さな単位に対応できるソフト面での充実を考えてほしい。
- ・ サークル活動のPRがしにくいので応援してほしい。

子育てサロン・サークル支援にあたっての考察

“地縁でないサークル等”は個人的なネットワークによって結成されていることがうかがえ、実際の活動上もあまり関係機関や団体との関わりを持っていません。活動上では自らやりたいことがあり、サークル員の都合で柔軟な活動形態をもっているようです。しかし“地縁団体主体サロン等”に比べて活動の前提となる運営上の条件確保に困難を抱えているようです。また、構成員・担い手の確保で困っているとあげているところが多いことから、社協や行政機関等の支援としては、資金援助や活動場所・人材の紹介などの運営上の条件確保を行っていくことを考えていく必要があるでしょう。

また、“地縁でないサークル等”は当事者や個人的ボランティアで運営されることが多く、活動の継続性で不安定な傾向があるともいえます。たえず、情報を収集していくことが求められるでしょう。そして、それぞれのニーズをキャッチし必要に応じて関係機関や団体とつなげ、連携を促していくことが必要でしょう。

一方、“地縁団体主体サロン等”は、組織的に結成され学区内の諸団体に承認されていることが多く、活動場所の確保や活動資金の確保が学区としてなされていたり、区社協からの資金援助がなされている例が多くみられ、“地縁でないサークル等”に比べれば、運営上の条件確保はなされている傾向にあるといえるでしょう。しかしながら、個別には活動費の確保や場所確保で困っているとあげているところもみられ、引き続き条件整備の必要性があります。さらに、設置については行政区によってばらつきがあり、母親のニーズが高まっている中で学区社協や民生児童委員協議会との関わりが従来から強い区社協の側からの支援が求められているといえるでしょう。

また、活動の中身そのもので困っているサロン等が見受けられていることから、活動内容のヒントを示す援助が求められるでしょう。例えば、サロン同士の交流会やサロンの担い手に対する研修を行っていくことが想定されるでしょう。さらに、自主的に柔軟な活動を行っている“地縁でないサークル等”の知恵を借り、サロンとサークルとの交流を行うなど、活動エリアに関わらないグループ同士の連携によって質の向上が図られていく可能性があるでしょう。

最近のサロン・サークル両者の増加によって、特にサロン関係者からは「活動内容が子育てサークルと競合するので困る」という声がしばしば聞かれます。地域の方で居場所をつくる子育てサロンと親子の自主的なサークルは、その活動目的の違いがありますし、参加する親子、特に母親の側の参加動機もさまざまあります。よって、活動の内容を少し見ただけでは同じように思えるものでも、活動の組み立て方や参加する母親の関わりの度合いや参加意識も異なっているといえるでしょう。母親にとっていろいろな行き場があることが求められ、サロン・サークルの互いの活動についてそれぞれが理解と共感もてるように支援していくことが必要であるのではないのでしょうか。

平成16年度地域における子育て支援推進事業

子育てサロン・サークルの実態調査報告書

平成17年4月発行

社会福祉法人京都市社会福祉協議会

〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83-1

ひと・まち交流館京都3階

TEL075-354-8732 FAX075-354-8737

ホームページアドレス <http://www.syakyo-kyoto.net/>